

厚生労働省のデータによりますと現在国内には約80万の「ひきこもり」がおり、また、引きこもり予備軍・ニートを含めると200万人とも300万人ともいわれております。特に多いのが30代から40代の働き盛り世代の「ひきこもり」で、昨今テレビでも特番を組まれることが多く、ある意味で、社会問題となっております。「ひきこもり」の平均年齢は32歳で、平均期間は12年とも言われております。

私は東京学芸大学の教員時代に不登校やひきこもりの子供たちを支援するためのキャンプやウォーキングなどをやっておりました。これらの子供たちは自分の能力とは関係なく自身を失っています。能力があっても自信がないので一歩踏み出せないでいるのです。

当センターのスタッフは24時間体制で「ひきこもり」の方々に根気よく家から一歩踏み出す自身と勇気を与えてくれます。スタッフの熱意ある真剣な態度が「引きこもり」の人たちの目を家の外に向けさせるのです。

絶望の縁にいる「ひきこもり」の方々やご家族の方々に、これほど頼もしい支援はないと確信しております。

次に、「ひきこもり」対策として様々なサポート体制がありますが、それらのサポートと本センターとの違いについて述べておきます。

1. 行政の事業と本センターの違い：民間であるからこそ出来ること

- ①厚生労働省は平成21年度より「ひきこもり対策推進事業」なるものを立ち上げ全国民各市区町村に65ヶ所の「ひきこもり地域支援センター」があるものの、体制には限界があり、効率的に機能しているとはいえません。
- ②「ひきこもり」の当事者が自分自身で動けない場合、親御さんやお身内の方々が相談に行くものの「ひきこもりの本人を連れてきなさい」と言われてしまいます。このようなケースでは行政の支援・サポートには限界があります。
- ③在宅・通い等ではなく、「ひきこもり」当事者の自宅まで出向き、説得し、当センターにてお預かりすることによって、常に当事者に対してほぼ付きっきりで自立に向けてサポートします。完全自立である就職に向けたサポートを実施しております。
- ④自立後もクライアントからの相談に応じるなど、半永久的なサポートをしています。

2. フリースクール等と本センターの違い：完全に「個」に対する支援・サポート

- ①フリースクール等では「ひきこもり」当事者を一箇所に数十人集めて集団生活をさせますが数十人に対して指導員は2名~3名が現状です。
- ②当センターでは「ひきこもり」当事者にワンルームマンションを提供し、また1人に対し3名~5名のスタッフがサポートしております。
- ③各種ボランティア・社会活動・レクレーション等にも参加させ、本当の意味でのコミュニケーション能力を育成しています。
- ④自立に向けた就職に関しては数多くの実績があり、必ず就職させています。